

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは8月30日(金) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		8月29日現在	9月の予想 (月末値)	
USD	ドル・円 (円)	144.59	138.0 ~ 152.0	145.0
	日米金利差の更なる縮小観測を背景にドルの上値は徐々に重くなる展開			
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.113	1.09 ~ 1.13	1.10
	ユーロ・円 (円)	160.97	155.0 ~ 168.0	160.0
ユーロは堅調に推移も、FRB会合後は上値が重い				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.320	1.28 ~ 1.35	1.30
	ポンド・円 (円)	190.90	180.0 ~ 197.0	188.0
日銀による年内追加利上げ観測からGBP円は上値の重い展開				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	98.24	94.0 ~ 103.0	98.0
	NZドル・円 (円)	90.89	87.0 ~ 93.0	89.0
豪ドル・NZドルは強弱材料入り混じるも、対円では上値重い				
株式 相場	日経平均 (円)	38,357	37,000 ~ 41,000	39,500
	エヌビディアの堅調な決算を受け上昇を予想			
長期 金利	NYダウ (ドル)	41,091	39,000 ~ 43,000	42,000
	エヌビディアの堅調な決算を受け上昇を予想			
長期 金利	日本 (%)	0.885	0.85 ~ 1.10	1.000
	市場が落ち着きを取り戻す中で政策金利の正常化見通しにより金利上昇			
長期 金利	米国 (%)	3.835	3.50 ~ 4.00	3.750
	FRBの利下げ開始で低下基調に転じる可能性			

◆ 今月の注目ポイント

いよいよ米国が利下げサイクル入りへ

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
米国大統領選挙	◎	【10日 米大統領選挙テレビ討論会】 共和党候補のトランプ前大統領と民主党候補のハリス副大統領の初めての直接対決。開催地はペンシルベニア州フィラデルフィア。同州は激戦州の中でも最重要とされている。支持率の接戦が続く中、どちらが勢いをつけるか注目度が高い。
金融政策	◎	【17-18日 FOMC】 前回7月FOMCの議事録で「多数が9月利下げが適切になりそうと認識」と、いよいよ米国が利下げサイクル入りする公算。市場では一部で0.5%の大幅利下げを予想する声もあり、内容次第でマーケットは大きく動く可能性あり。
金融政策	◎	【19-20日 日銀金融政策決定会合】 内田副総裁が「金融資本市場が不安定な状況で利上げすることはない」と発言したことから、今月の利上げは見送りがコンセンサス。但し、年内追加利上げのアナリスト予想は根強く、植田総裁の発言には注目が集まるだろう。

◆ アジア通貨見通し

	8月29日現在	9月の予想 (月末値)	
人民元・円	20.43	19.50 ~ 21.50	20.50
バーツ・円	4.270	4.40 ~ 4.60	4.50
ルピア・円	0.940	0.90 ~ 0.96	0.92

◆ 今月の重要日程

3日(火)	米	8月ISM製造業	18日(水)	米	FOMC議事要旨
5日(木)	日	7月毎月勤労統計	19日(木)	英	英中銀金融政策委員会
5日(木)	米	8月ISM非製造業	20日(金)	日	8月全国CPI
6日(金)	米	8月雇用統計	20日(金)	日	日銀金融政策決定会合
6日(火)	米	8月CPI	24日(火)	豪	豪中銀金融政策委員会
12日(木)	欧	ECB理事会	29日(日)	米	8月PCEコアデフレータ

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

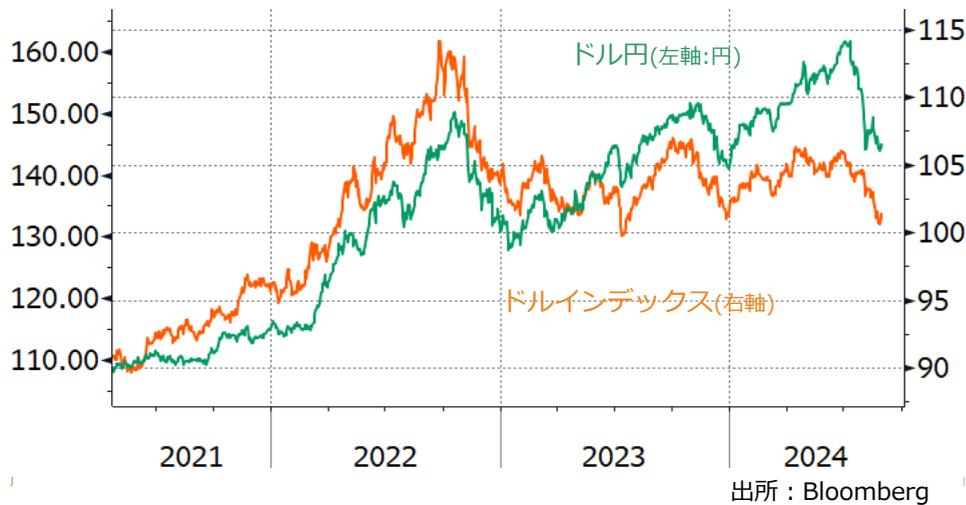
◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円

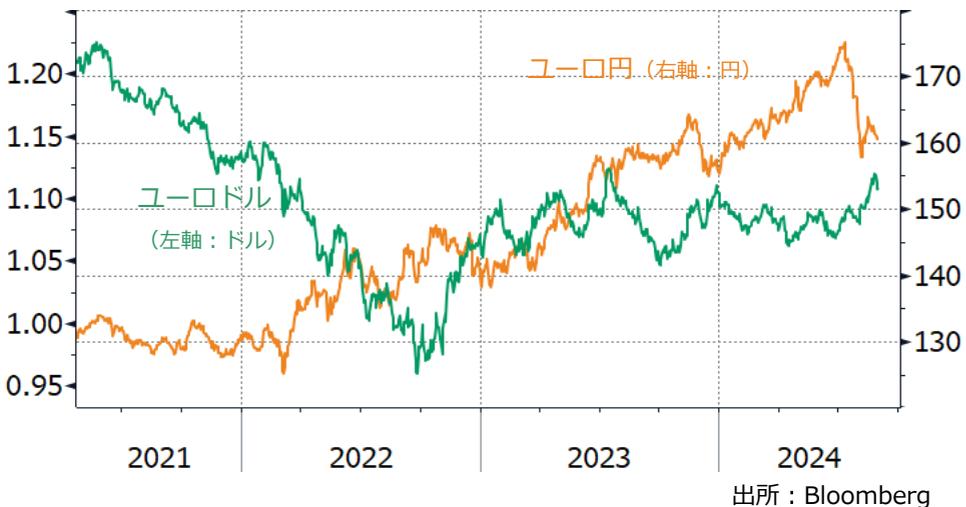
138.00 - 152.00円

日米金利差の更なる縮小観測を背景にドル円の上値は徐々に重くなる展開

8月のドル円相場は、米国の景気後退懸念やサプライズとなった日銀の追加利上げを背景に、日経平均が5日に史上最大の下げ幅を記録、急速なリスクオフの動きにドル円は一時141円台まで急落。その後は内田副総裁の「金融資本市場が不安定な状況で、利上げすることはない」と市場を落ち着かせる発言などを受けて、概ね143円台から149円台で一進一退の動きとなった。

9月のドル円は上値の重い展開を見込む。先月パウエルFRB議長は「政策調整の時が来た」とF利下げ局面入りをほぼ明言し、労働市場に緩みが見られることから予防的利下げを年内に複数回実施すると見られている。一方で、8月の混乱を受けて日銀の年内利上げ観測は一旦後退しているが、市場の落ち着きに伴い再び追加利上げを織り込む動きが頭在化する可能性がある。米大統領選や国内では自民党総裁選とその後の解散総選挙など、日米政治の不透明感もあり一進一退を繰り返しながらも、日米金利差の更なる縮小観測を背景にドル円の上値は徐々に重くなる展開を今月は見ている。

ユ ー ロ



ユーロドル

1.09 - 1.13ドル

ユーロ円

155.00 - 168.00円

ユーロは堅調に推移も、FRB会合後は上値が重い

8月の月初は米雇用統計の下振れを受けた米国景気懸念の台頭から大きくドルが売られる展開となった。リスクオフが急速に進行するなか円買いが膨らみ、対円ではユーロも下落し一時155円台をつけた。その後は米経済の堅調さを示唆する経済指標公表が相次いだことによる米国景気懸念の後退や、パウエル議長講演をはじめとしたFRB高官らによる米9月利下げ示唆を受けて、ドル売りが進みユーロドルは年初来高値の1.11ドル台で推移している。

9月のユーロは、特にFRB会合までは堅調に推移しそうだ。ECBによる9月利下げを市場は織り込んでおり、高官らからも利下げを匂わせるような発言が相次いでいるが、FRBも9月利下げとなれば欧米で足並みが揃うことになり、金利差要因での為替変動は抑えられるだろう。ただし、FRBによる9月利下げ幅は50bpsの織り込みも一部みられることから、メインシナリオである25bpsの利下げとなった場合は織り込み剥落からドル上昇圧力がかかる展開が見込まれる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

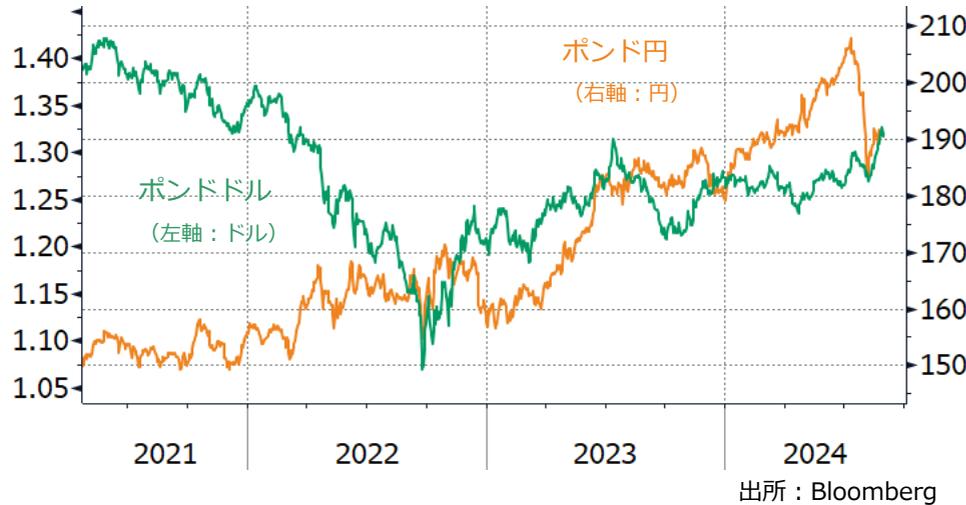
◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポンド



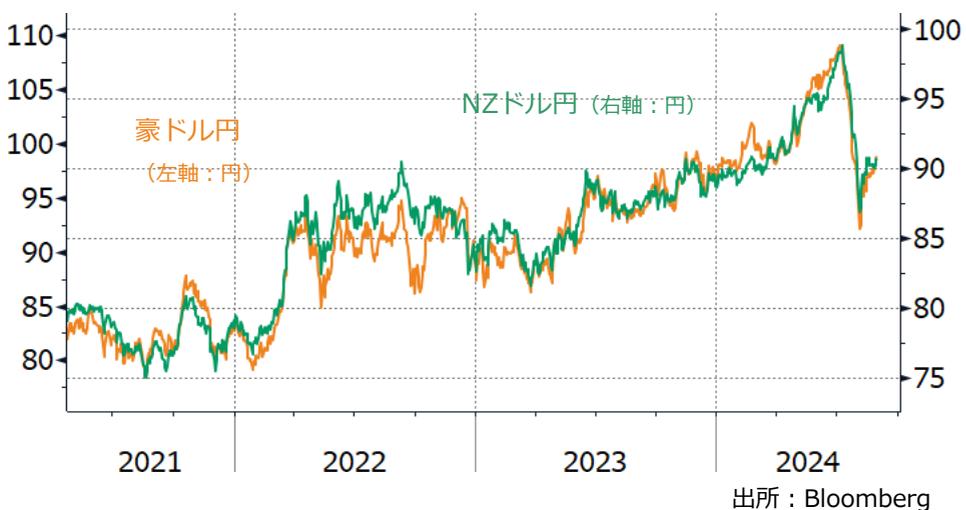
ポンドドル	1.28 - 1.35ドル
ポンド円	180.00 - 197.00円

日銀による年内追加利上げ観測からGBP円は上値の重い展開か

8月1日に英中銀は約4年5ヶ月ぶりとなる利下げに踏み切った。初旬はポンド売りが先行したものの、FRBの年内複数回利下げの見方を背景にドル売りポンド買いが強まり反転。さらに、パウエルFRB議長が「政策を調整すべき時が来た」と利下げをほぼ明言したことから、月末にかけてドル売りポンド買いが加速した。ポンド円は、日経平均が史上最大の下げ幅を記録した8月5日に180円台まで下落したが、その後は対米ドルでのポンド買い戻しに連れて190円台を回復した。

9月のポンド円は上値の重い展開を見込む。米国の利下げ開始が見込まれるが、市場は既に織り込み済みであり更なる米金利低下は見込みにくく、対米ドルでのポンド続伸には至らないと見る。一方で、8月の混乱を受けて日銀の年内利上げ観測は一旦後退しているが、市場の落ち着きに伴い再び追加利上げを織り込む動きが顕在化する可能性がある。円金利の上昇とともに円高が徐々に進行すると思われ、英中銀の追加利上げの思惑とともにポンド円は上値の重い展開を見込む。

豪ドル・NZドル



豪ドル円	94.00 - 103.00円
NZドル円	87.00 - 93.00円

豪ドル・NZドルは強弱材料入り混じるも、対円では上値重いか

7月から下落を続けていたオセアニア通貨は、米国景気懸念の台頭によるリスクオフの流れを受けて8月月初には一段と下落幅を広げ、一時豪ドルは90円台、NZドルは83円台をつけた。その後、米国景気懸念の後退から対ドルでは徐々に豪ドル・NZドルともに買い直す動きが続いたが、対円では上値の重い展開が続いており、ここ数年の円安オセアニア通貨高トレンドが終焉した可能性が高い。

9月のオセアニア通貨はレンジ内での推移を見込む。リスクオンムードへの転換による米国株高や、豪中銀のタカ派姿勢維持に対する米利下げ開始など、オセアニア通貨が底堅さを見せる材料が増えてくるものの、一方で中国経済に対する懸念は底が見えない状態が現在も続いており、特に中国への原材料の輸出大国である豪州はその影響を強く受けて、特に対円ではオセアニア通貨の上値が重い展開となりやすいだろう。

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株式見通し



日経平均

37,000 – 41,000円

エヌビディアの堅調な決算を受け上昇を予想

8月末に公表されたエヌビディアの決算は極めて堅調で、実績、ガイダンス共に市場予想を上回った。日本株は、8月上旬の大暴落を機に、短期筋が撤退したことでパフォーマンスが米国株等に対して劣後していたが、エヌビディアの決算を受けて米国株が上昇し、割安感が強まる中で見直し買いの動きが期待できよう(米株上昇ストーリーは下記参照)。また、その過程においては、円売り需要が発生するため、円高進行が限定的となるであろう点も、株価にポジティブである。

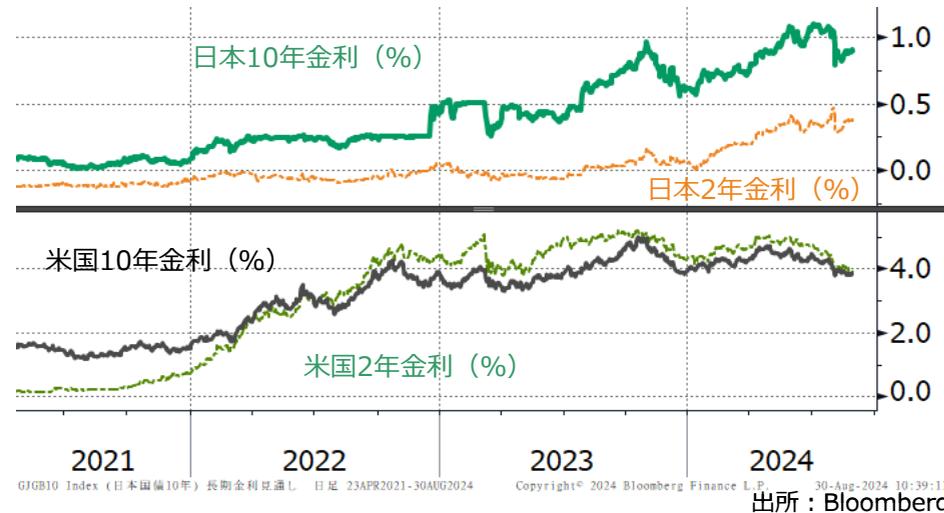
NYダウ

39,000 – 43,000ドル

エヌビディアの堅調な決算を受け上昇を予想

8月末に公表されたエヌビディアの決算は極めて堅調で、実績、ガイダンス共に市場予想を上回った。今や米国株は、指数ウェイトの過半がIT系企業で占められており、影響は極めて大きい。特に、指数が最高値圏にある中で、8月の大暴落で他セクター対比でパフォーマンスの劣後していたITセクターに見直し買いが入れば、最高値を更新する公算が大きい。同社の株価はいったん下落で反応したが、8月の大暴落でセンチメントが悪化していたことが大きかりょう。米景気後退懸念が払しょくされるにつれて上昇傾向に回帰しよう。

長期金利見通し



日本国債10年

0.85 – 1.10%

市場の混乱が落ち着きを取り戻す中で日銀の政策金利の正常化見通しにより金利は上昇

8月上旬は、日本を中心とした株式市場の大幅な下落によって、金融市場の不安定性が高まり、日本の長期金利も大幅に下落した。ただし、日銀は市場が不安定な時に利上げはしないと説明しているが、賃金増加をはじめマクロ経済環境それ自体は順調であり、市場が安定すれば利上げを継続するとの姿勢は崩していない。米国の利下げのタイミングが近づく影響がありそうだが、日銀の金融政策正常化への期待が根強いことから金利は緩やかに上昇するだろう。

米国債10年

3.50 – 4.00%

FRBの利下げ開始で低下基調に転じる可能性

市場では、8月の想定以上に弱い雇用統計を機に9月利下げ開始との見方が強まっている。ジャクソンホール会議において、パウエル議長はマーケットの織り込みを迫認する姿勢を示しており、9月FOMCで利下げが開始となる公算が大きい。利下げ幅は25bpsと見ているが、9月雇用統計も低調となれば50bpsの可能性もある。いずれにせよ、実際に利下げが開始となれば、リスクオンムードが優勢となり、一段と金利低下が進む可能性がある。

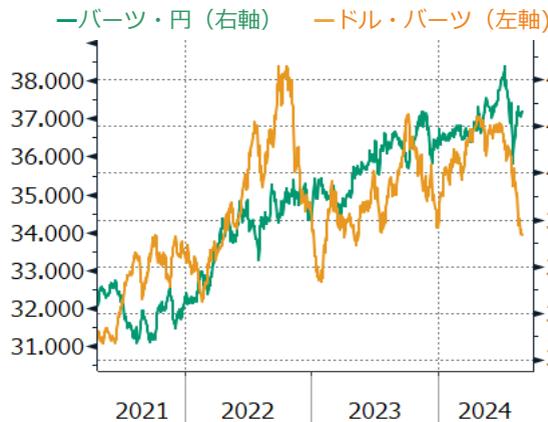
◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		9月の予想	見通し
中国	人民元/円	19.50 ~ 21.50	中国当局の景気下支えと米利下げ期待の高まりでドル人民元の頭打に注目 8月は米国の雇用統計とCPIが予想を下回る結果となり、また、パウエルFRB議長が9月利下げを強く示唆する講演を行ったことなどでドルが下落した。また、8月には大きな動きはなかったものの、中国では7月に中国人民銀行が政策金利を引き下げ、三中全会では景気を下支えする姿勢を強めている。こうした米国の利下げタイミングの接近と、中国当局の景気下支えによるドル人民元の低下が持続的な動きとなっていくのが注目となる。
	ドル/人民元	7.10 ~ 7.30	
タイ	バーツ/円	4.40~4.60	セター首相が失職。新首相のペートン氏は景気浮揚策を示しバーツ高に寄与 7月のドル/バーツは、セター首相が失職し、新たにペートン氏が首相に就任、景気浮揚への期待が高まり、バーツ高が進行した。看板政策のデジタルマネー1万バーツの早期支給に前向きと伝わったことが背景にあり、今後を展望すると、景気浮揚への期待やFRBの利下げ開始に伴う米金利低下がしましばらく続く公算が大きく、ファンダメンタルズからはバーツ高進行が示唆される。
	ドル/バーツ	33.0~36.0	
インド	100ルピア/円	0.90~0.96	米利上げ以降加速したドル高ルピア安は一服、対円は軟調な推移が継続か 米国景気懸念を機に対ドルでルピア高に転換、一方で対円では世界的なリスクオフムードの高まりを受け、円高が急速に進行した。日銀は追加利上げ自体は否定せずタカ派的な姿勢を維持しており、日銀が利上げ局面にある限りは対円相場は軟調に推移しやすい展開が続くと見込む。
	ドル/ルピア	15,000~15,800	



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2024/8/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2024年		2025年		ポイント
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
ドル円	レンジ	135～162	130～150	130～150	130-150	日銀に対する追加利上げ期待を背景に年初からの円安トレンドは途切れた模様。日米金融政策の方向性の違いからドル円は上値の重い展開に。
	期末値	145	140	140	140	
ユーロドル	レンジ	1.06～1.16	1.05～1.15	1.06～1.16	1.08～1.18	足元の景気は製造業中心に停滞感が強いが、米利下げ織り込みが進みドルが弱くなるなか、ユーロは相対的に堅調な動きを見せそうだ。緩やかな利下げパスによる景気回復の見通しもユーロにはポジティブだが、日銀のタカ派姿勢維持からユーロ円は上値が重い。
	期末値	1.10	1.10	1.12	1.12	
ユーロ円	レンジ	155～175	145～165	145～165	150～170	円キャリーポジション巻き戻しの動きに年初からのポンド高円安トレンドは途切れた模様。英中銀の利下げ開始や日銀の追加利上げが意識されることから、ポンド円は徐々に上値が重くなる算算。
	期末値	160	154	157	157	
ポンドドル	レンジ	1.25～1.35	1.23～1.33	1.20～1.30	1.20～1.30	中国当局は通貨価値防衛から景気浮揚へと軸足を移しており、人民元安を容認する姿勢を示している。金融緩和を含めた景気支援策や不動産市場支援策による中国経済の回復は元の上昇要因だが、FRBの緩和局面が開始されることから、ドル人民元も下落局面に入っていく
	期末値	1.30	1.28	1.25	1.25	
ポンド円	レンジ	180～210	169～189	165～185	165～185	豪中銀の利下げ開始は来年にずれ込む見通し。中国をはじめとしたグローバルの製造業景況感が回復すれば、24年度後半以降は底堅い動きとなりそうだ。
	期末値	188	179	175	175	
ドル人民元	レンジ	7.10～7.35	7.10～7.30	7.00～7.20	6.90～7.10	観光業の回復、景気支援策から底堅く推移するが、日銀政策修正の思惑で徐々に下落へ。
	期末値	7.20	7.20	7.10	7.00	
人民元円	レンジ	19.50～22.30	18.50～21.50	18.50～21.00	19.50～21.50	
	期末値	20.13	19.44	19.72	20.00	
豪ドル円	レンジ	90.00～110.00	88.00～104.00	86.00～102.00	88.00～102.00	
	期末値	98.00	94.00	94.00	96.00	
タイバーツ円	レンジ	4.00～5.00	4.10～5.10	4.10～5.10	4.10～5.10	
	期末値	4.50	4.60	4.60	4.60	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
9/2(月)	4-6月期法人企業統計調査	(労働感謝の日)	(中) 8月製造業PMI
9/3(火)	10年債入札	8月ISM製造業景況指数	
9/4(水)		7月製造業受注	
		7月貿易収支	
9/5(木)	30年債入札	8月ADP雇用統計	
	7月毎月勤労統計 (速報)	8月ISM非製造業景況指数	
9/6(金)	7月家計調査	8月雇用統計	
9/9(月)	4-6月期GDP (二次速報値)		(中) 8月CPI
	8月景気ウォッチャー調査		(中) 8月貿易統計
9/10(火)	5年債入札	3年債入札	
9/11(水)		10年債入札	
		8月CPI	
9/12(木)	20年債入札	30年債入札	(欧) ECB定例理事会
	8月企業物価指数	8月PPI	
9/13(金)			
9/14(土)			(中) 8月生産・小売・投資

	日本	米国	その他
9/16(月)	(敬老の日)	9月NY連銀製造業景気指数	
9/17(火)		20年債入札	(独) 9月ZEW景気指数
		8月小売売上高	
9/18(水)	7月機械受注	8月住宅着工・許可件数	
	8月貿易統計	FOMC (結果発表)	
9/19(木)		8月中古住宅販売	(英) BOE金融政策委員会
		9月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	
9/20(金)	8月消費者物価指数		
	植田日銀総裁定例会見		
9/22(日)	(秋分の日)		
9/23(月)	(振替休日)		(欧) 9月PMI (速報値)
9/24(火)		2年債入札	(豪) 準備銀行理事会
		9月消費者信頼感指数	(独) 9月IFO企業景況感指数
9/25(水)		5年債入札	
		8月新築住宅販売	
9/26(木)	40年債入札	4-6月期GDP (確定値)	
	日銀金融政策決定会合議事要旨 (7/30~31開催分)	7年債入札	
9/27(金)		8月個人所得・消費支出	
9/30(月)	2年債入札		(中) 9月PMI
	8月鉱工業生産		(中) 9月製造業PMI
	8月住宅着工件数		



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【8/2～8/9】

◎地方GDPの成長が鈍化、消費財も低迷

中国31省・自治区・直轄市（以下、地域）の2024年上半期（1-6月）の実質域内総生産（GDP、速報値）が出揃い、23地域の成長率が第1四半期に比べて鈍化した。景気が停滞する現状を反映した形で、全国平均（前年同期比5.0%）を上回ったのは16地域。6%台の成長を達成したのは内モンゴル自治区（6.2%）、重慶市（6.1%）、チベット自治区（6.1%）の3地域で、1-3月の8地域から減った。小売売上高が前年同期比減少した地域は沿海部と観光地を中心に5地域あり、消費財の伸び悩みが見て取れる。24年上半期の全国1人当たりの平均可処分所得は5.4%増だったが、第1四半期の6.2%からは鈍化した。

【8/9～8/15】

◎中古住宅取引の回復継続、新築は不振

中国の中古住宅市場の復調が続いている。重点15都市を対象とした2024年7月中古住宅取引戸数は前年同期月42.5%増の9万9,000戸、2カ月連続のプラスとなった。購入規則の緩和や住宅ローン金利の下落などの政策が需要を刺激し、家主は所有物件を早く売り抜こうと価格を引き下げる動きを見せ、買い手の関心を集めた。足元では売りに出される中古住宅の数が減少し、供給減と需要回復が進めば、中古住宅価格は下げ止まると見通し。一方、実需が中古に流れる中、新築住宅市場は引続き低迷している。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5	2024/6	2024/7
実質GDP成長率	%	4.9	-	-	5.2	-	-	5.3	-	-	4.7	-
消費者物価上昇率	%	0	-0.2	-0.5	-0.3	-0.8	0.7	0.1	0.3	0.3	0.2	0.5
都市部調査失業率	%	5.0	5.0	5.0	5.1	5.2	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0	5.2
輸出額	10億ドル	296.5	274.2	292.6	303.3	306.7	219.8	279.2	291.8	302.2	307.9	300.6
輸入額	10億ドル	221.3	218.3	223.6	228.5	222.4	180.7	221.1	219.8	219.7	208.8	215.9
経常収支	100万ドル	196,796	-	-	252,987	-	-	39,213	-	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,115.1	3,101.2	3,171.8	3,238.0	3,219.3	3,225.8	3,245.7	3,200.8	3,232.0	3,222.4	3,256.4
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.30	7.31	7.22	7.14	7.17	7.19	7.20	7.24	7.23	7.25	7.26

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶” (上海からティータイム)

りそな銀行上海駐在員事務所

○中国、上半期婚姻数が数年来最低

中国民政部が8月2日に報告した「2024年上半期民政統計データ」によると、中国の上半期の婚姻数は343万組で、前年同期比で49万8,000組減少し、近年の最低水準にまで落ち込んでいます。

婚姻届数は13年に1,346万9,000組のピークを迎えましたが、翌14年からマイナスに転じ、22年は683万5,000組まで減少しました。23年はコロナ政策の転換による反転上昇効果で768万組に回復しましたが、24年に入り婚姻数が13年以来最低となりました。

結婚に対する考え方の変化や晩婚化に加え、住宅ローンや子育てなどの経済的な負担への不安が大きな要因です。

中国では持ち家がないと結婚できないという慣習があります。結婚をすると、若者にとって住宅ローン、車のローン、高い子供の教育費用を負担しなければならないことを意味しています。

「お金がない人は結婚する勇気がない。お金がある人は結婚する必要がある」という言葉は、若者の間で冗談としてよく言われています。

中国の住宅価格は長年にわたって高騰が続いてきました。ここ数年は住宅価格が下落する傾向があるものの、高価格帯を維持しています。特に北京、上海等の大都市の住宅価格は、平均年収に比して異常な水準となっています。

住宅ローンの返済負担が重く、返済金を含む固定費用が、毎月の世帯収入の半分を占めるのも普通です。

中国青年報の調査では、住宅価格が高いことに関しては「ストレスを感じている」と答えた若者が9割超を占めていました。

また、子供の教育費用に関しては中国のシンクタンク・育娲人口研究が今年に公表した試算によると、中国で子供を17歳まで育てるにかかるお金は全国平均で53.8万元（約1100万円）。都市部ではさらに負担が重く、最も高い上海では、100万元（約2000万円）必要とされています。

1人当たり国内総生産（GDP）と比べると6.3倍で、英国（5.25倍）やスウェーデン（2.91倍）など先進国を上回っています。中国人の子育ての経済負担はかなり重いと言えます。

若者の婚姻数や出生率の低下は中国社会の課題となっています。中国の地方政府も育児休暇の延長や結婚奨励金などさまざまな支援策を打ち出していますが、効果が出ていません。

景気先行きの不透明感が高まる中で、若年層の結婚に対する意欲は減退し、非婚主義が更に広がっています。

2024/8/30

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆2024年6月の国内経済、前月から低下

タイ中央銀行は2024年6月の経済報告書で、前月に比べて経済活動が減速したとの見方を示した。外国人観光客の減少に伴う観光収入の低下や、農産物と電気製品の輸出不振が影響したと分析した。民間消費指数は前年同月比1.5%増で、非耐久財の消費は増えたものの、耐久・準耐久消費財は低迷した。鉱工業生産指数は同1.7%減少した。食品、石油関連製品等の生産が伸びた一方、自動車、電子部品等の生産が減少した。また、政府系企業によるインフラや、設備関連への投資が縮小した。他方、民間投資指数は同1.3%増と前月の同3.6%減から改善したほか、機械・設備投資や建設投資が増加した。

◆2024年7月の平均為替相場

7月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=36.30パーツで、前月の36.71パーツ高となった。対パーツ・日本円相場は平均で1パーツ=4.36円で、前月の4.30円から円安となった。

◆2024年7月CPI0.83%上昇、燃料や野菜・果物が影響

タイ商務省が発表した2024年7月の一般消費者物価指数（CPI）の平均値は、前年同月比0.83%増と、4カ月連続プラスになった。前月の0.62%増より伸びが加速した。物価上昇率の加速の要因について、燃料価格の上昇や、野菜・果物の価格が上がったことが背景にある。分野別では、食品・飲料が前年同月比1.27%増、非食品が同0.50%増とそれぞれ上昇した。2024年1～7月のCPI平均値は前年同期比0.11%増となった。

◆2024年1～6月の自動車生産台数、前年同期比17.4%減少

6月のタイ工業連盟（FTI）によると、2024年1～6月の自動車生産台数は76万1,240台で、前年同期比17.4%減だった。内訳は乗用車が28万3,223台（同11.8%減）、商用車が47万8,017台（同20.4%減）だった。国内の新車販売台数は前年同期比24.2%減の30万8,027台。完成車輸出台数は同1.8%減の51万9,040台。輸出額は同10.4%増の3,634億7,440万パーツだった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5	2024/6	2024/7
実質GDP成長率	%	1.4	-	-	1.7	-	-	1.5	-	-	-	-
消費者物価上昇率	%	0.3	-0.3	-0.4	-0.8	-1.1	-0.8	-0.5	0.2	1.5	0.6	0.8
失業率	%	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	-
輸出額	100万ドル	25,694	23,753	23,674	22,787	22,650	23,385	24,961	23,279	26,219	24,797	-
輸入額	100万ドル	23,288	24,176	25,609	21,566	25,408	23,939	26,124	24,920	25,563	24,579	-
経常収支	100万ドル	3,512	1,523	-574	2,705	181	2,096	337	-45	647	1,950	-
外貨準備高	10億ドル	211.8	210.9	219.1	224.5	221.6	222.4	223.4	221.1	224.3	224.3	230.6
主要政策金利	%	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
対ドル為替レート	パーツ	35.9	36.5	35.4	34.9	35.2	35.9	36.0	36.8	36.6	36.7	36.2

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

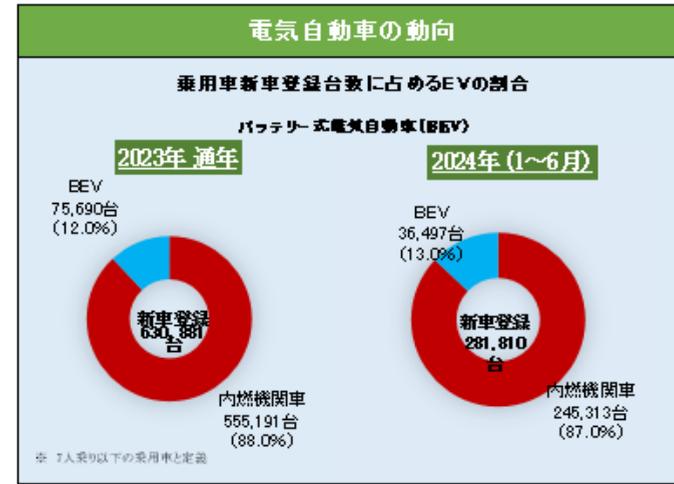
タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

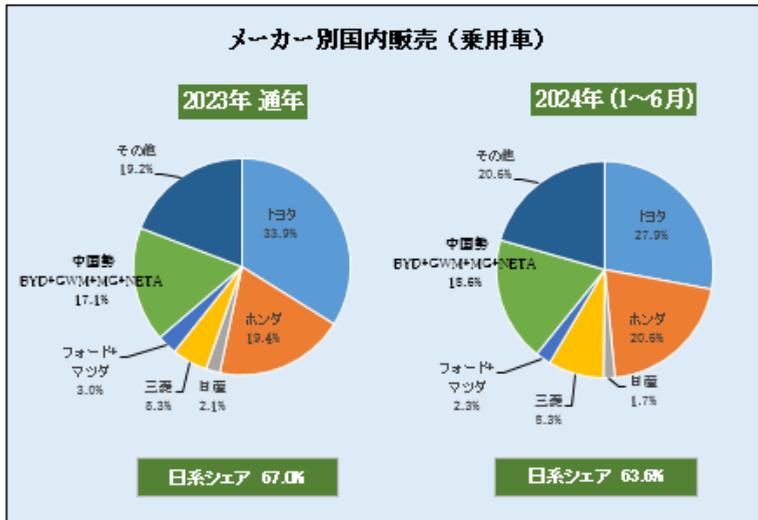
タイにおける自動車産業の動向

		2021年	2022年	2023年	2024年 (1~6月)	前年同月比 1%	6月
【自家】 (台)							
四輪	本拠合数						
	本田	599,844	600,839	648,803	283,223	88.2	43,033
	本田	1,085,881	1,282,878	1,192,883	478,017	79.8	73,258
	合計	1,685,725	1,883,717	1,841,686	761,240	82.8	116,291
四輪	国内販売合数						
	本田	251,800	255,069	292,505	119,328	80.8	17,737
	本田	507,319	584,319	483,275	188,701	73.1	29,925
	合計	759,119	849,388	775,780	308,029	75.8	47,662
輸出合数		959,194	1,000,258	1,117,539	519,040	98.2	89,071
二輪	本拠合数	1,780,854	2,015,940	2,120,738	994,573	88.2	158,598
	国内販売合数	1,806,481	1,792,018	1,858,814	890,534	89.8	150,458
	輸出合数	965,967	1,004,840	822,808	414,318	96.9	54,715
【海外車輸出金額 (B/Fパーツ)							
四輪		581,147	619,348	719,992	383,474	110.4	63,099
二輪		75,985	73,729	88,589	32,730	91.3	4,145

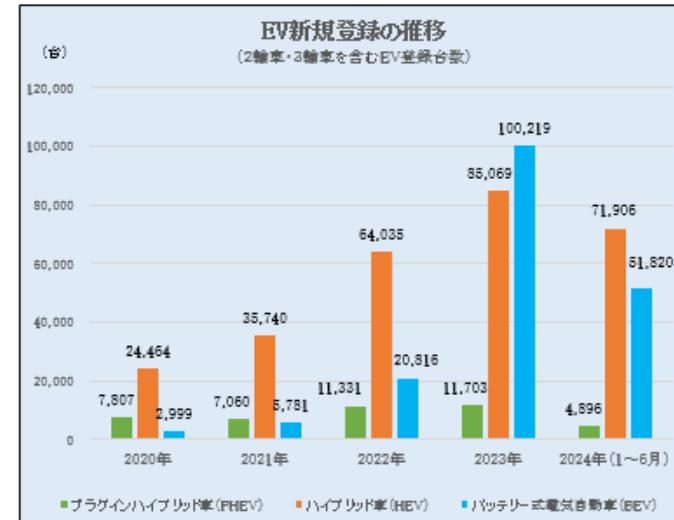
出所: タイ工業連盟(FTI)



出所: タイ運輸省 陸上交通運輸のデータセンター



出所: タイ国トヨタ自動車株式会社のデータセンター



出所: タイEV協会, タイ運輸省 陸上交通運輸